

社会連帯のあり方探る

13日・神戸 賀川豊彦顕彰シンポ

賀川豊彦（1888

戸市中央区下山手通4
の県公館で開かれる。

1960）写真が、神戸市中央区でキ

リスト教伝道を通じた

救貧活動を始めて今年

5年）のボランティア

で100年を迎えるの

活動を振り返り、社会

に合わせ13日午後1時

の連帯のあり方を考え

半5時半、シンポジ

ウム「神戸から地球へ

共に生きるために

域で難民や災害被災者

地球規模で広がる格差

を支援するNGO「ア

社会に阪神淡路大震災

シアポランティアセン

からの呼びかけ」が神

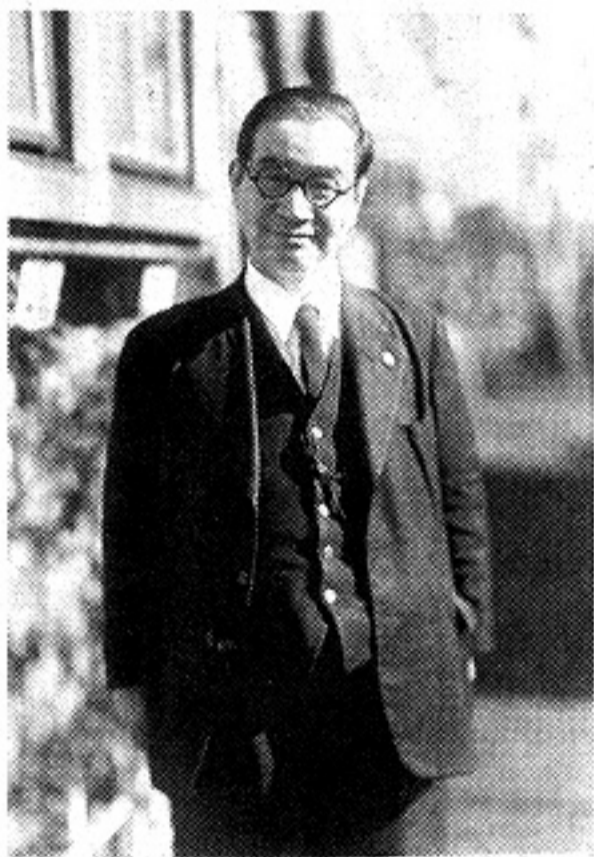
ター」（大阪市）と県

などが主催する。

日本の生活協同組

合、労働組合、信用金

車などの祖で、関東大



震災（1923年）の被災地でも日本初の

「ボランティア」活動を行った賀川豊彦は神戸市生まれ。1909年から中央区に住み込んで貧しい人々の救済にあたり、晩年は徴兵制廃止や核兵器反対など平和運動にも身を投じた。

シンポでは、賀川の業績と震災後の市民活動を振り返りながら、グローバル化の進行で経済・貧富の格差などさまざまな「ひずみ」が起こる現代社会で、市民の連帯やボランティア社会の在り方について考える。貝原俊民

その後、「社会運動の国際的連帯」と題してタイ・バンコクのスラムで救援活動をしたから震災時、多額の義援金を被災地に贈ったプラティープ財団理事長のプラティープ・ウ

・前県知事が「阪神・淡路大震災と『賀川精神』」を、野田正彰・関西学院大教授が「心のケア 100年の時空を超えて今、求められる課題」をテーマに、それぞれ基調講演す

国際看護師協会会長で近大姫路大学長の南裕子さんらが、芹田健太郎・愛知学院大大学院教授のコーディネイトで討論する。入場無料。当日参加可。

【中尾卓英】